

幼児の描画の認知発達の様相

— 一幼児の描画の軌跡から —

中西正治*

Cognitive Developmental Aspects of Drawing in Infants

—From the trace of the drawing of one infant—

Masaharu Nakanishi*

要 旨

一幼児の描画の軌跡を追い、どのような認知過程をたどっていくのかその様相を調査した。その結果、人物像の認知と図形・空間の認識の関係では、たくさんの友達を描く頃になると回転的空間感情が出てきていること、まゆげ・開いている口・閉じている口と細かく描写できる頃には左右、前後、上下の空間認識が出てくること、男女の区別を描く頃になると、空間での物の動きや、内外の区別ができるようになり、それと同時に、物語性や時間認識が現れること、立体の構造を認識できるようになる頃には、服やズボン、人物の後ろ姿、横顔、ザリガニの足の数・目の位置・触角などの細かい観察ができるようになり、その描写が可能となること、さらに空間を細分化して見る能力もできてくることなどが見られた。またグッドイナフによる人物画知能検査 (DAM) の結果は、CA (生活年齢) が 6 : 4、MA (発達年齢) が 7 : 5、IQ は 117 であった。

キーワード: 描画 幼児

1. 研究の目的と方法

幼児は殴り書きをととても楽しむ。その行為は、幼児の遊戯そのものであったり、自分の体との対話であったりする。認知は身体の発達や情緒的な発達と切り離せないもので、互いに影響し合いながら発達していく。

幼児の描画の発達研究は様々行われてきている。例えば、倉原弘子「幼児の描画発達における一考察—幼児の描画発達と睡眠-覚醒リズムとの関連性—」⁽¹⁾、近藤綾・渡辺大介・中見仁美「幼児の描画表現に関する発達の研究—想像画と観察画の比較—」⁽²⁾、葉山正行「子どもの描画表現とその発達に関する一考察—内在する操作手法という観点より—」⁽³⁾などがある。しかしこれらは複数の幼児の描画を対象とし、一般的な様

相を研究したものである。本稿は、一幼児の描画の軌跡を追い、どのような認知過程をたどっていくのかその様相を調査した。

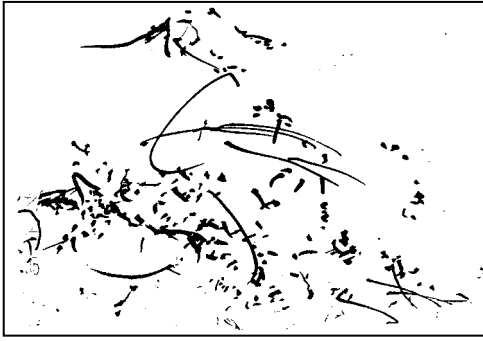
資料は保育園児のときの記録である。主に人物像の認知と図形・空間の認識の視点で見えていく。幼児が描いた用紙の大きさは四つ切画用紙の大きさである。本稿の文中の「」は保育園の保育士が幼児から聞き出した状況や言葉で、用紙に書かれていた内容である。

2. 分析および考察

描画の記録は生後1才6ヶ月から6才6ヶ月までで、その中で認知が変化したと考えられる部分を取り出し、ていく。

*三重大学教育学部

(1) 1才6ヶ月 (図1) (1985.4.11) リス組



(図1)

ただ、なぶりかきをしているだけのように見える。運動衝動が優位に立った表現であり、描いた紙の上に表れる印に興味を持ちさらに描く。生き活きとした行為である。図形としては点が中心であり。線もかく方向に意識がなく、起点はあっても終点がない。

(2) 2才3ヶ月 (図2) (1985.12.24) リス組



(図2)

点を中心としていたのが、折れ線になってきている。ギザギザの線もあり、その線と交差する線も現れている。まだ図形は閉じていない。何かを描いたわけではなく、保育士に聞かれ「オオカミ」「ワンワン」「ニャンニャン」「ヒコーキ」と答えている。

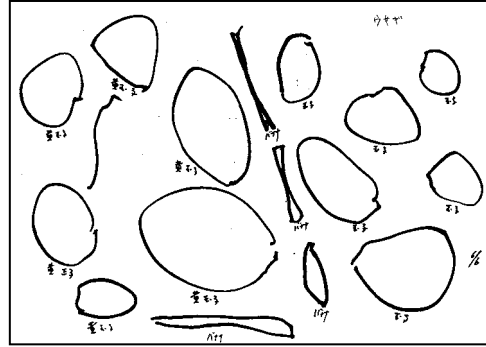
(3) 2才5ヶ月 (図3) (1986.3.11) リス組



(図3)

線にも少し丸みが出始め、ぐるぐる回る渦巻のような曲線的な図形も描く一方、閉じた図形も描き始めてきた。原基の円の萌芽がある。丸でいろいろなものを表現しようとし始めている。

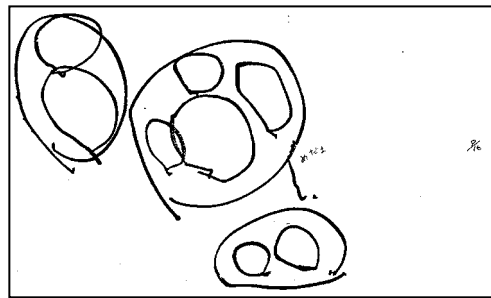
(4) 2才8ヶ月 (図4) (1986.6.6) ウサギ組



(図4)

閉じたきれいな丸(原基の円)をかき始めてきた。また、丸いものと長いものとの区別(例えば「卵」「バナナ」)が絵の上で現れてきた。さらに同じ丸もそれぞれの丸に違った意味があるようだ。(例えば「卵」「黄卵」)いろいろなものを丸で表している。最も単純な視覚的形態であろう。

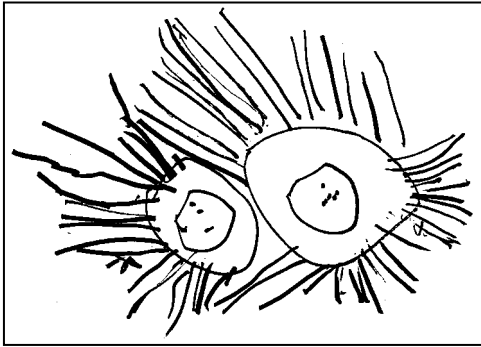
(5) 2才10ヶ月 (図5) (1986.7.16) ウサギ組



(図5)

「めだま」と言って、丸の中に丸をかいている。人物を意識し始めている。

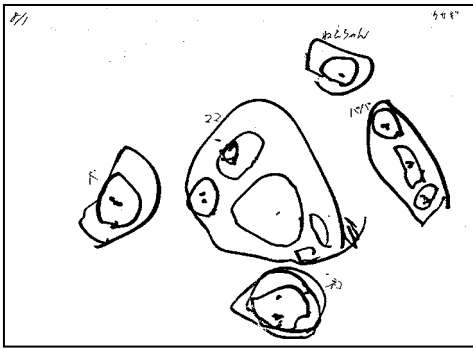
(6) 2才10ヶ月 (図6) (1986.7.31) ウサギ組



(図6)

(図5) とほとんど同時期である。「タコ」の絵に足の存在がある。タコの顔らしきものを描いている。

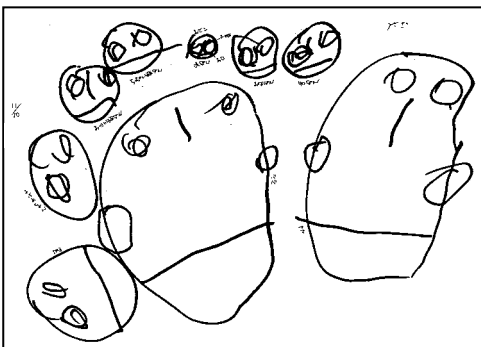
(7) 2才10ヶ月 (図7) (1986.8.1) ウサギ組



(図7)

これも (図5) とほとんど同時期である。目だけでなく、口も意識し始めていて、人物像が確認できる。また「ママ」、「パパ」、「ねえちゃん」、「犬」、「ネコ」を描いており、身近な家族や自分の知っている動物を認知し始めている。

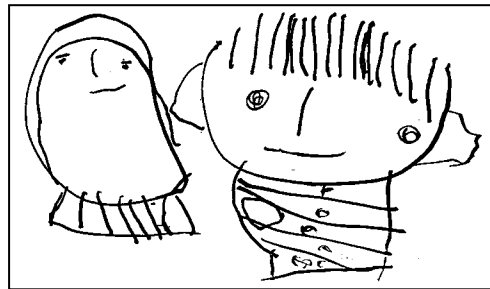
(8) 3才1ヶ月 (図8) (1986.11.10) ウサギ組



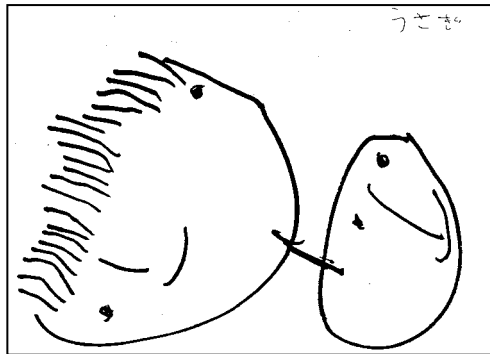
(図8)

認知が、目、口、鼻、耳、おでこにまで広がってきた。自分の生活の中で身近に感じる人「おっきいばあちゃん」、「ちっちゃいばあちゃん」、「おばちゃん」、「リカちゃん」、「赤ちゃん」を描いている。パパ、ママの顔を大きく描いているのは幼児にとってその存在の大きさを表している。

(9) 3才6ヶ月 (図9) (図10) (1987.3.16) ウサギ組



(図9)

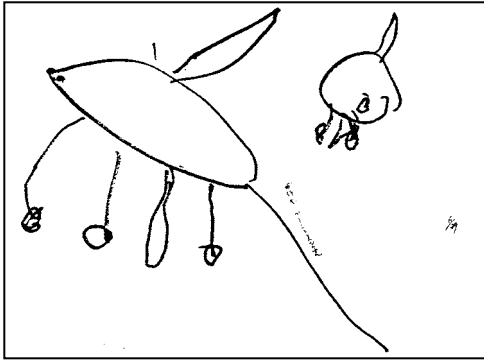


(図10)

(図9) では、「おかあちゃん」、「かなちゃん」を描いている。髪の毛、胴までかかっている。胴には服およびそのボタンまで描いている。手や足はまだ認識されていない。

(図10) には、「パパがおんぶしてくれる。パパがあるいている。」と記述している。絵から考えると、自分が上で、パパが下になっていて、上下の空間認識ができてきているようである。しかし、その後の描画の流れを見るとそうとも言い切れない。表現の仕方はまだまだ幼稚で、手も足もないので、顔が体を表現し、顔の上に顔が乗っているのだろう。

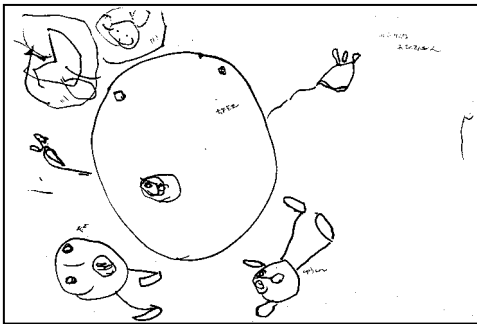
(10) 3才9ヶ月 (図11) (1987・6・29) キリン組



(図11)

「飛行機プーンと、とんでんねん」の記述がある。飛行機の足と羽を描いている。長い線で飛行機が高く飛んでいる様子を表している。

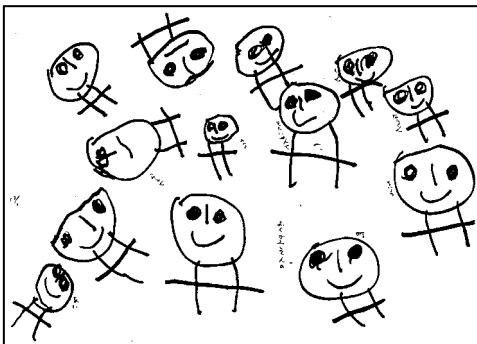
(11) 3才10ヶ月 (図12) (1987・7・18) キリン組



(図12)

「川でみんなであそんでんねん」の記述がある。家族から視点が社会的になり、友達「ゆうくん」「たか」「ちよ先生」を描き始めてきている。手や足を描き始めているが、まだ線である。胴までは描けていない。

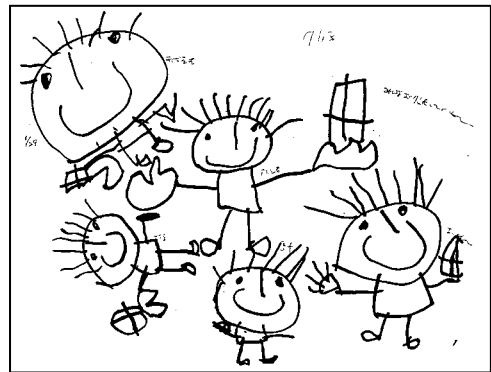
(12) 4才2ヶ月 (図13) (1987.12.1) キリン組



(図13)

「おりがみしてんの」の記述がある。しかし折り紙の存在はない。人物は胴を認知し始めている。手や足も描いているが、胴との区別がはっきりと成されていない。たくさんの友達をかいている。そしてどの友達の表情もほとんど同じで明るい。体の向きが傾いて描かれているが、他の絵と同じように描かれていることからすると、用紙を回転させて自分の向きに合わせ描いたのであろう。回転的空間感情の現れであろう。

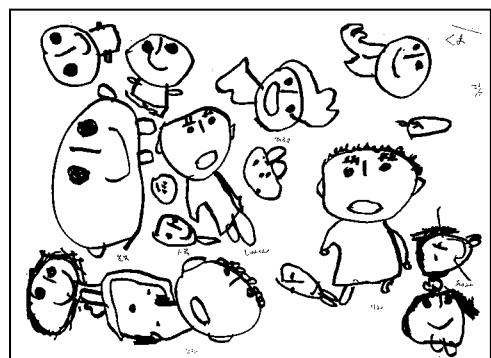
(13) 4才4ヶ月 (図14) (1988.1.29) キリン組



(図14)

「みんな おりがみしてんねん」の記述がある。胴を明確に認知し、手足の区別がついている。さらに髪の毛の毛、手の指、足の甲もかき始めている。まだ顔の表情は少し豊かになりみんな明るく楽しそうである。作業の様子も描くようになってきている。1つの手には折り紙を持っている。認知する視点が細かくなっている。物との係わりがでてきている。

(14) 4才7ヶ月 (図15) (1988・4・12) クマ組

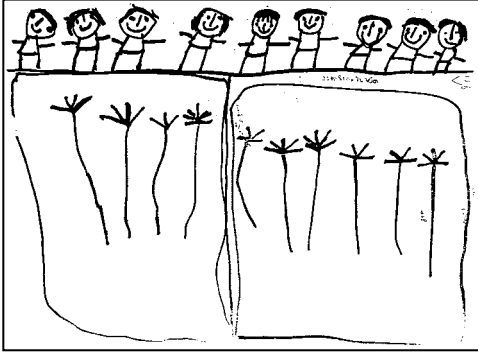


(図15)

まゆげも認知し始めている。口も開いている口と閉

じている口がある。腕が線ではなく幅があり、脚にも幅がある。しかしこのことが定着するのは、5歳8ヶ月位からである。胴からつづいて描いている。この描画も用紙を回転させて自分の向きに合わせ描いている。

(15) 4才11ヶ月 (図16) (1988.8.20) クマ組



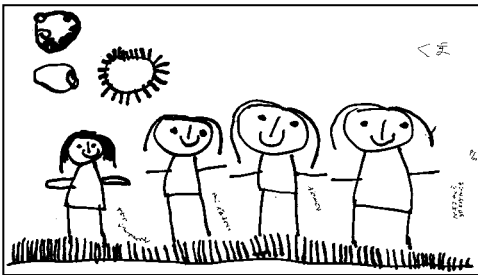
(図16)

「ここから ならんでんの」と言って、お花を並べている。(左右の空間認識)

「ここから バックしてんの」と言っている。後ろを認知している。(前後の空間認識)

T字型の線で、横に並んだ友達と、2つの花畑を区別している。基底線が現れている。

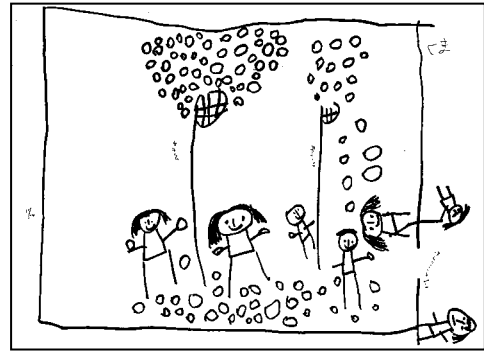
(16) 5才0ヶ月 (図17) (1988.8.26) クマ組



(図17)

「かなえ、みつけたのバツタにげてん」「みな、とつたん」「あい、みつからへんの」「ちなつ、・・・かってん」の記述がある。草原で昆虫を捕まえている様子を描いている。上には太陽と雲らしきもの、下には友達を描いている(上下の空間認識)、友達は基底線上に仲良く並んで立っている。

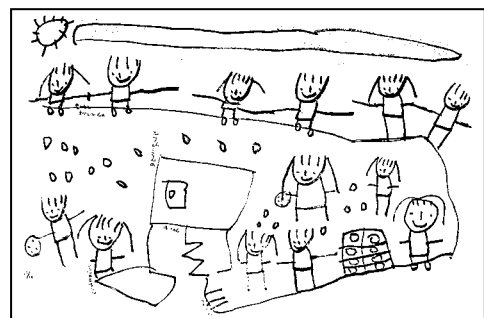
(17) 年齢5才1ヶ月 (図18) (1988.10.24) クマ組



(図18)

玉入れをしている。上の空間を意識し玉入れの玉の動きも表そうとしている。玉をもっている手と、持っていない手がある。玉入れの回りには、「はしりっこしてんの」の記述がある。四角を描いて内と外の区別をしている。また、男の子と女の子の髪形を区別して描いている。

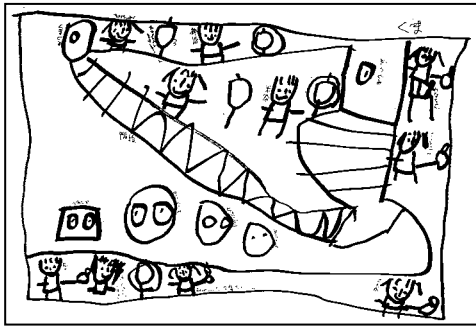
(18) 5才2ヶ月 (図19) (1989.12.13) クマ組



(図19)

「ほいくえん」「2かい おりてくつはいてどんぐりやまへいってんの」「どんぐりひらってんの」「男と女をつないでんの」の記述がある。どんぐりを拾いに行ったときのことを描いている。絵に物語性、時間経過が出てきている。上には太陽と雲(空?)を描いている。男女一組となって手をつないでいる。また他の友達の手にはどんぐりを持っている様子を描いている。

(19) 5才4ヶ月 (図20) (1989.1.19) クマ組

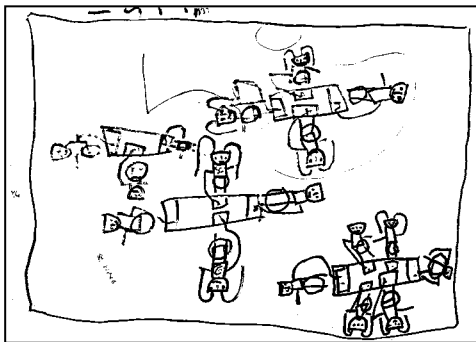


(図20)

「かなちゃんまわしてんねん」「あいちゃんいまくるくるひもまわしてんねん」「あゆみちゃんふくろあけてんねん」の記述がある。保育園の1Fや2Fでの友達の活動の様子を表している。

1Fには、ひよこ組、きりん組、りす組がある(うさぎ組が抜けている)。階段を上がって、2Fには、くま組、ぞう組がある。保育園の建物の構造を表している。表現は未熟であるが、立体の構造を認識できている。

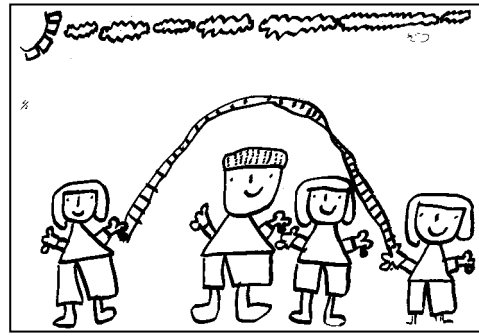
(20) 5才7ヶ月 (図21) (1989.4.21) ズウ組



(図21)

「絵かいてんの」の記述がある。髪型からすると、男の子と女の子の区別もしている。しかし立体的ではなく平面的に描いている。また1方向からのみ見たのではなく、それぞれをすべて正面から見た絵になっている。この描画も用紙を回転させて自分の向きに合わせて描いている。友達の手が絵を描くために紙の上まで伸びている。

(21) 5才8ヶ月 (図22) (図23) (1989.6.2) ズウ組



(図22)



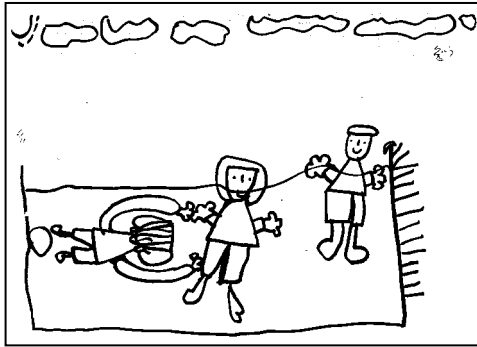
(図23)

(図22)では、空には太陽と雲があり、縄跳びをみんなでしている様子が描かれている。服やズボンを身に付け、そこから手足が出てきている。手の指を認知している。また髪型の男女の差の表現も細かくなっている。男の子は髪の毛の1本1本も描いている。確実に、腕が線ではなく幅があり、脚にも幅があることが定着してきた。縄の様態まで描いている。

(図23)は、空には太陽と雲があり、その下でザリガニ釣りをしている。陸と池の区別の線が水平に描かれている。ザリガニの手足の区別(手足の本数が正しい)や胴と尾の区別もできている。ザリガニの目、触角の位置なども詳しくかけている。

(図22)(図23)とも胴の長さ、腕の長さ、足の長さの関係にある程度認識している。

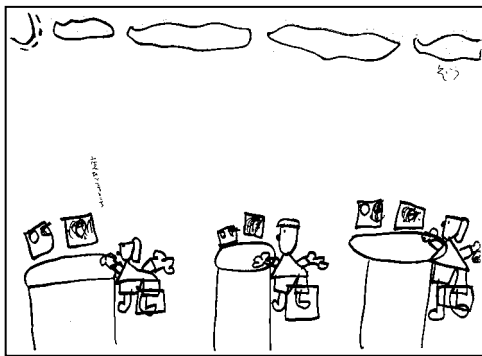
(22) 5才8ヶ月 (図24) (1989.6.11) ゾウ組



(図24)

今までは、人物を正面でしか捉えられなかったのが背面も捉えられるようになってきた。

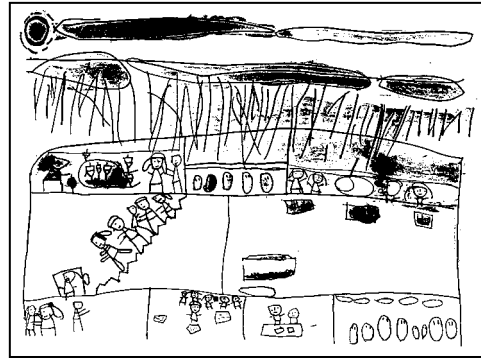
(23) 5才8(?)ヶ月 (図25) (1989.6.?) ゾウ組



(図25)

「ごはんたべているところ」の記述がある。椅子に座ってご飯を食べている。体は正面向きを描いているが、顔は横顔も認知し始めている。食べ物は、机の上であり、給食はお膳にのっている。お膳は上から見た絵になっている。

(24) 6才4ヶ月 (図26) (1990.1.19) ゾウ組



(図26)

雨の日のことでみんなが保育園の中でいろいろなことをして遊んでいる様子が描かれている。

「みんな駒まわしてんねん。ほんでな～園長先生と看護婦先生とな～勉強してんねん。ほんでクマ組も駒まわしてんねん。ゾウ組は鬼ごっこしてんねん。ほんでキリン組さん、糊でな～折り紙やってんねん。ちよちゃん 誰かだっこしてんねん。」というように、見る範囲も広くなり、1つ1つを細かく観察していて、空間的な広がりもかなり出てきている。階段を横からかいている。幼児の階段を降りる角度が階段に対して垂直である。

3. まとめと考察

以上のことを、人物像の認知と図形・空間の認識の視点から簡単にまとめてみる。

年齢	人物像の認知	図形・空間の認識
1才6ヶ月		点
2才3ヶ月		折れ線
2才5ヶ月		原基の円の萌芽
2才8ヶ月		原基の円
2才10ヶ月	目	
2才10ヶ月	目、口	
3才1ヶ月	目、口、鼻、耳、おでこ	
3才6ヶ月	髪の毛、胴、服のボタン	上下（おんぶ）
3才10ヶ月	足（友達を描く）	
4才2ヶ月	手、（たくさんの友達を描く）	
4才4ヶ月	手足と胴との区別、髪の毛の細かい表現 手の指、足の甲	物との係わり 回転的空間感情
4才7ヶ月	まゆげ、開いている口、閉じている口 腕や脚が胴と1つにつながっている	
4才11ヶ月		左右、前後の空間認識、基底線
5才0ヶ月		上下の空間認識
5才1ヶ月	髪型で男女の区別	空間での動きの表現 内外の区別
5才2ヶ月	男女一組、手の細かい様子	（物語性）（時間認識）
5才4ヶ月		立体の構造の認識
5才7ヶ月		自分の視点から見てそれぞれを描く
5才8ヶ月	腕や脚に幅があることが定着。服・ズボン （細かい観察；ザリガニの足の数、目の位置、触角） 人物の後ろ姿、横顔	
6才4ヶ月		空間を細分化

まず、描画は運動衝動が優位に立った表現活動から始まる。描いた紙の上に表れる印に興味を持ち、活き活きと描く。図形としては点が中心であり、線もかく方向に意識がなく、思いのままに描いている、起点はあっても終点はない。何を描こうとするのではなく「描くこと」自体が楽しいのであろう。この段階では人物像の認知と図形・空間の認識の区別は付けられない。

原基の円ができるようになると、運動衝動はなくなっていく、「描く」という行為に移っていく。

人物像の認知では、初期は原基の円はいろいろなものを表現しているが、円は徐々に分化・発展していく。出現する順序は、おおよそ 目→口→鼻→耳→胴→手（線）→胴と手の区別→手の指・足の甲→眉毛→空いている口・閉じている口→髪型で男女の区別→手の細かい様子→腕にも脚にも幅を持たせる→服・ズボン→人物の後ろ姿・横顔→（細かい観察；ザリガニの足の数、目の位置、触角）となっている。自分→家族→友達・動物（少数→多数）へと視点は広がり細部まで認

知できるようになる。

図形・空間の認識では、点→折れ線→原基の円→円の中に円→回転的空間感情→左右・前後の認識→基底線→上下の認識→空間での人物や物の動きの表現・内外の区別（物語性）（時間認識）→立体の構造の認識→空間の細分化となっている。

人物像の認知と図形・空間の認識は無関係ではなく、たくさん友達を描く頃になると回転的空間感情が出てきている。また顔の表情も、まゆげ・開いている口・閉じている口と細かく描写できる頃に左右、前後、上下の空間認識が出てくる。男女の区別を描く頃になると、空間での物の動きや、内外の区別ができるようになる。同時に、物語性や時間認識が現れる。立体の構造を認識できるようになる頃には、服やズボン、人物の後ろ姿、横顔、ザリガニの足の数・目の位置・触角などの細かい観察ができるようになり、その描写が可能となる。さらに空間を細分化して見る能力もできてくる。

グッドイナフによる人物画知能検査(DAM)⁽⁴⁾では、CA（生活年齢）が6:4、MA（発達年齢）が7:5、IQは117であった。

以上のような様相が見受けられた。

（謝辞）

本稿を書くにあたり岡田珠江先生からは貴重なご意見とご示唆を賜りました。ここに深く感謝申し上げます。

〔参考文献〕

(1) 倉原弘子著「幼児の描画発達における一考察 — 幼児の描画発達と睡眠-覚醒リズムとの関連性—」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部 研究紀要』第49号 2017

(2) 近藤綾・渡辺大介・中見仁美著「幼児の描画表現に関する発達的研究 — 想像画と観察画の比較—」『幼年教育研究年報』第38巻, 85-93, 2016

(3) 葉山正行著「子どもの描画表現とその発達に関する

一考察—内在する操作手法という観点より—」『大阪キリスト教短期大学紀要』57, 118-132, 2017年12月12日

(4) 小林重雄著『DAM グッドイナフ人物画知能検査ハンドブック』三京房 1991年3月16日再版発行
本書で紹介されているグッドイナフ人物画知能検査(DAM)は、Goodenoughによって1926年に発表され、その後 Harris による改訂を経て、1977年に小林が標準化した検査法である。

(5) W・グレッツィンゲル著、鬼丸吉弘訳『なぐりがきの発達過程』「幼児画の謎」改題 黎明書房 1978年11月10日改題1刷発行

(6) グリン・V. トーマス/アンジェル・M. J. シルク著、中川作一監訳『子どもの描画心理学』法政大学出版局 1996年2月29日初版第1刷